

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立伊勢まなび高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		○生徒が安心して楽しく学べる学校 ○生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○生き生きと楽しく学校生活を送ることができる生徒 ○自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている生徒
	ありたい教職員の姿	○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整え、学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている教職員 ○通級による指導に必要な知識・スキルを身につけ、生徒一人ひとりの特性や実態に応じた適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○キャリア教育の重要性を理解し、生徒が学ぶことと将来とのつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけることができるよう、適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○信頼される学校・教職員であるため、教育に携わる者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉適切な友人関係の構築、自分の居場所の確保、わかりやすい授業、資格取得、卒業及び希望進路の実現 〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、学校生活の充実、希望進路の実現、家庭との密接な連携 〈中学校〉不登校等の多様な課題を持つ生徒の受け入れ 〈地域〉生徒の規範意識の向上、生涯教育の場の提供 〈就労・進学先〉挨拶等の社会性の育成、コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着、資格取得	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者、中学校、地域、就労・進学先〉同上 〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉生徒の居場所の確保、生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応	〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、日常生活に関する情報の把握及び共有 〈中学校〉学校生活に関する情報提供、生徒に対する連携したかわり 〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉専門分野における生徒への直接的な、教職員への間接的な支援 〈地域〉外部教育力としての専門的な知識・技能の提供、生徒の見守り
(3) 前年度の学校関係者評価など	○ICTの活用については、教員や教科によってまだまだ偏りがあるようである。GIGAスクールサポーター等の人材の積極的な活用、教員間で授業実践を相互に参観、中学校の授業を参考にするなど工夫が必要。 ○通級による指導は本校の重要な教育活動であるので、全教職員が協力して指導に当たり、生徒が個々の課題に取り組み、コミュニケーション能力をつけ、社会的	

(3)前年度の学校関係者評価など		自立に必要な基本的スキルの向上を図る支援をしていただくようお願いしたい。 ○体育祭の時期を工夫し、種目もレクリエーションを取り入れ楽しく過ごせるようにし、行事を面白いし楽しいと感じるようなイベントとして開催できるようにしてほしい。 ○30 日以上欠席した生徒に対し、専門的な指導を受けたことにより効果があるなら、より一層取り組みを強めていてもらいたい。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの専門スタッフにも対応してもらい、家庭状況や経済の不安、心の問題など多面的にサポートする方法を充実してほしい。 ○在校生のアンケートで、授業に欠席することがあるなど、注意しなければならない回答が多く出ている。担任や教科担当で気になる生徒がいれば情報を共有しあって生徒が学校を続けられるよう十分なサポートをお願いしたい。 ○早期からの就労・就職支援は行われているが、進路の決まらない生徒がいる。手厚いフォローを期待したい。 ○職員1人当たりの月平均時間外労働は 2.6 時間であり、年間休暇取得日数は 16.8 日となっているので、これからも先生方が生き生きと働ける学校であってほしい。
(4)現状と課題	教育活動	○ICTの活用を核に、授業規律の確保・徹底も含め「わかりやすい」授業の構築(授業改善)を推進し、生徒の学習意欲をさらに引き出す授業づくり、また、指導と評価を一体化し、カリキュラム・マネジメントの充実に取り組む必要がある。 ○特別な支援・配慮を必要とする多様な生徒、特に、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルに課題のある生徒が数多く入学していることから、個の課題をふまえたきめ細かな対応の充実に取り組む必要がある。また、通級による指導について、生徒の課題の改善に繋がるよう、環境整備や教職員のスキルアップ等、円滑で効果的な指導の確立に取り組む必要がある。
	学校運営等	○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりがコンプライアンスを遵守するとともに、三部制で複雑な勤務体系ではあるが、学校全体で風通しのよい活力ある組織づくりに取り組む必要がある。 ○体罰やわいせつ行為、ハラスメント等の不祥事の根絶及び未然防止に組織的に取り組む必要がある。 ○生徒数の減少に対応するため、普通科(午前・午後の部)の特色化やものづくり工学科(夜間部)の魅力化等を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すため、「わかりやすい授業」の構築(授業改善)を推進する。特にICTの活用により、生徒が主体的に取り組める授業の構築を目指すとともに、基礎学力のさらなる定着を図る。 ○生徒の多様な実態をふまえ、特別支援教育やキャリア教育等の効果的な生徒支援を推進する。特に、教職員間で生徒に関する情報を丁寧に共有したうえで、あらゆる機会をとらえて生徒の自己肯定感や社会的自立に必要なコミュニケーション能力の育成を図る。
学校運営等	○生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、また、特別支援教育のさらなる充実を図るため、授業改善やICTの活用、新学習指導要領への適切な対応、通級による指導のあり方の研究等により、教職員の資質向上を推進する。 ○会議時間の短縮や変形労働時間制の活用等により、総勤務時間を縮減し、働きやすい環境の整備を推進する。 ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりが生徒に対する深い愛情と教育に対する使命感・責任感を持ち、生徒と向き合いながら日々の教育活動を行うことができるよう、コンプライアンスを遵守するとともに、風通しの良い活力ある組織づくりを推進する。

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○定時制高校で学ぶ意欲をもち、社会に出るための力を身につけようとする生徒。 ○学校生活の中で他者を尊重しつつ、自分のペースで学び続けることができる生徒。 ○本校における体験や取組を通して、新たな自分を見つけることに挑戦しようとする生徒。
--	---

(1)教育活動

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着(学習指導の充実)	○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整える。 ○ICTの活用を推進し、「わかりやすい」授業を構築(授業改善)することにより、生徒の学習意欲の向上を図る。 【活動指標】 ○学校生活(授業評価)に関する生徒アンケートの実施が年1回以上 【成果指標】 ○「授業に対する興味・関心」「内容理解」「満足度」の高い割合が90%以上 ○ICTの活用により、学習指導の効果をあげられている教員の割合が90%以上	【活動指標について】 ○授業評価アンケートを1回実施。 【成果指標について】 ○授業評価アンケートにおいて「興味・関心」が87.6%(前年度比+4.0)、「内容理解」が92.1%(同+0.7)、「満足度」が86.7%(同-2.0)であった。 ○ICT活用により学習指導の効果をあげることができた教員の割合が97.0%であった。 【その他について】 ○TTや通級等により、個に応じたきめ細かな支援を引き続き行うことができた。 ○不登校生徒(6名)や病気療養中の生徒(1名)に遠隔授業を実施することにより、学びの継続を図ることができた。	※ ◎
個に応じた生徒支援	○通級による指導をはじめとする特別支援教育を推進し、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る。 ○生徒指導、命を大切にする教育やいじめを許さない教育、人権教育、生徒会行事等を推進し、生命尊重の精神や自己肯定感の育成、人間関係の構築(仲間づくり)を図る。 ○教育相談や保健指導、図書館教育等を推進し、心身の	【活動指標について】 ○面談週間・教育相談週間は年3回実施。声かけ週間は年5回実施。 【成果指標について】 ○声かけ週間では、生徒が自ら挨拶できた割合は78.1%(前年度比+)	◎ ※

	豊かな成長を図る。 【活動指標】 ○面談週間や声かけ週間等の生徒支援を重点的に行う 機会の設定が年6回以上 【成果指標】 ○自ら挨拶できる生徒の割合が 90%以上 ○各行事の参加率、満足度が高い生徒の割合がそれぞれ 90%以上 ○30 日以上欠席した生徒のうち、養護教諭、スクール カウンセラー、相談員等による専門的な指導・相談を 受けた割合が 30%以上	7.6)で、教員からの声 替えを含めると 91.4% (同+6.6)の生徒が挨拶 できた。 ○行事等への生徒の満足 度等については次の通 りである。 *体育祭では、参加率が 85.3 %、満足度が 88.7 %であった。 (前年度は悪天候によ り中止) *文化祭では参加率が 84.7%(同+3.7)、 満足度がまなび横町 83.2%・ステージ企 画 50.5%であった。 (ステージ企画は見て いない生徒が 48.4%で、見た生徒 の満足度は 98.0%) *人権を考える集いで は、理解度 92.7%、 満足度 93.8%、12 月の人と人とのきず なを作る集いでは、 理解度 94.5%、満足 度 96.7%であった。 *読書週間に関するア ンケートでは、充実度 が6月 79.3 % (同 +1.3) と 10 月 78.1 % (同-7.9)で あった。 ○欠席日数 30 日以上(休 学を除く)の生徒のうち 専門的な指導・相談を受 けた割合は、61.1%(同 +33.6)であった。 【その他について】 ○特別支援学校やサポス テ、企業等と連携して 「通級による指導」を実 施し、卒業後に必要な基 本的スキルの向上を図 った。 ○令和6年9月より、外部 の音や視線を遮断し、気 持ちを落ち着かせるた めのカームダウンスペ	
--	---	---	--

		ースを設置した。 ○人と人とのきずなを作る集いは、部落差別を主題に事前学習や講演会、学年を越えた縦割り班での話し合いを行った。	
キャリア教育の充実	○進路指導を中心とする教育活動全体におけるキャリア教育を推進し、自らの進路や生き方を主体的に考える力の育成を図る。 ○早期からの就労・就職支援、またものづくり工学科の専門性を生かした職業教育を推進し、生徒一人ひとりの適性に応じた進路実現を図る。 ○いせ若者就業サポートステーション等、就職にかかる各種外部機関との連携強化を図る。 【活動指標】 ○進路だよりの発行及び進路講話の開催が年3回以上 ○アルバイトやインターンシップ等の就労経験を随時奨励・創出 【成果指標】 ○就労経験ができた生徒の割合が 50%以上	【活動指標について】 ○自らの進路や将来を考え意識する機会として進路行事を年3回、各別に企業等を招聘して実施した。 ○進路だよりは3回発行。3回目を2月に発行予定。 ○掲示板を活用し、アルバイト・インターンシップの紹介を行った。 【成果指標について】 ○就労経験ができた生徒の割合は 52.9%(前年度比+9.1)であった。 【その他について】 ○年間を通じて、挨拶や入退室等、社会生活を送るうえでの基本マナーの指導を行った。 ○ものづくり工学科では、日々の実習を通じて働く心構え等を身につけられるよう、あいさつの励行、実習内容の理解と安全作業の確認、作業終了時の片付けや清掃の励行に努めた。また、親子体験講座や産業教育フェアへの参加により、社会的スキルの向上ができた。	※
改善課題			
○ICTの活用を推進し、「わかりやすい」授業の構築(授業改善)を行ったことにより、生徒の「興味・関心」や「理解度」は向上したが、「興味・関心」「満足度」が目標の 90%に若干ながら届かなかった。授業規律について、教員に注意を求める意見があったことから、生徒がまなびに取り組むための環境の整備について、教員の目線を合わせる必要がある。 ○ほとんどの教員がICT活用により学習指導の効果をあげられたと感じている。今後は Chromebook の活用法を工夫するとともに授業のUD化を図り、更なる授業改善や特別支援教育を推進していく必要がある。			

- 挨拶については、9割以上の生徒が行うことができたが、このうち自分からは挨拶ができない生徒が1割強存在する。いろんな生徒がいるなか、自発的に挨拶ができるよう、待つことや声のかけ方など工夫していきたい。
- 体育祭が雨でも開催できるよう体育館での実施も計画したが、予備日に運動場で実施することができた。体育祭・文化祭ともに参加率・満足度が少し目標に届かなかったので、生徒の意見を企画に取り入れるなどの工夫をして魅力ある行事にしていきたい。また、文化祭のステージ企画は多くの生徒が見られるよう時間や場所等の検討を行いたい。
- 読書週間に関する10月のアンケートでは充実度が前年度より下がった。「周囲がうるさい」という意見があったことから取組中の規律の確保や読書時間(10分間)の検討等を行う必要がある。
- 通級等の特別支援教育では、キャリア教育の観点も含め、外部機関との協力・連携や外部教育力の活用を進め、個に応じた支援を実施することができた。引き続き、社会に出て自立できる力を身につけさせること、連携機関と生徒が卒業後も継続した支援体制を構築していくことなどに取り組んでいきたい。
- 今年度はサポステなどの就労体験や、24年生の午前部のアルバイト就労率が高かったことから、全体の就労率が向上した。今後もサポステや就労支援機関等と連携を図りながら、一般企業等への就職を目指す生徒の就職実現につながる手だてを講じていきたい。
- 不登校生徒が専門的な指導・相談を受けた割合が飛躍的に増加した背景としては、前年度は養護教諭が把握する部分を集計に加えてなったことによる。今年度の集計をきっかけに、担任と養護教諭が生徒の状況をこれまで以上に共有し、校内でより連携した指導・支援につなげるきっかけとなった。今年度から導入された遠隔授業については、課題等を検証し、生徒にとってより有効な取組としていきたい。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	○生徒の基礎学力の定着を図ることができるよう、ICTの活用に係る自己研鑽に努め、「わかりやすい」授業を構築(授業改善)する。	【活動指標について】 ○通級関係者会議を2回、特別支援教育推進委員会を3回、通級担当者会議を12回、生徒のケース会議を11回、特別支援教育に関する現職教育を1回実施した(2月17日予定)。 ○教職員が「通級による指導」に随時参加することで、校内の特別支援教育に対する周知、理解を図った。 ○1学期は4回(内GIGAスクールサポーターが2回)、2学期は3回実施。 【成果指標について】 ○校内外の自主研修に複数回参加した教員の割合が100%であった。	※◎
	○通級による指導をはじめとする特別支援教育、また、その他の教育等に係る自己研鑽に努め、個に応じた生徒支援を図る。 【活動指標】 ○通級関係者会議や現職教育等の校内研修機会の設定が年10回以上、また、校内外の研修機会への参加が教職員1人当たり年1回以上 ○ICTに係る研修等の機会の設定が学期に1回以上 【成果指標】 ○校内外の自主研修に複数回参加した教員の割合が100%		※◎

信頼される 学校・教職員であるための行動	○教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、その根絶に率先して取り組み、公教育への信頼の回復・向上を図る。 ○教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる(チームワークの向上と意欲の増進が可能な)職場環境を整備するとともに、保護者・地域住民・関係諸機関等と連携し、信頼される組織の構築(学校づくり)を図る。 【活動指標】 ○学校信頼向上委員会の開催が年3回以上、また、コンプライアンスを遵守するための研修等の機会が年6回(各学期2回)以上	【活動指標について】 ○学校信頼向上委員会は、2回実施(12 月末現在)し、コンプライアンスミーティングは、校務分掌等の小グループで話し合い、その内容を校内で共有する方法に改善し、2回実施した。また、職員打合せ等で県内の不祥事等の情報を随時共有した。 ○教職員満足度アンケートを1回実施、管理職と教職員との対話は、全員と少なくとも4回実施する機会を設けた(1回は3月に予定)。 ○入学希望者の増加に向けた取組としては、教頭が中学校を訪問し、特長ある取組等についての情報共有を行った。また、ものづくり工学科は親子体験講座や伊勢まつり、産業教育フェア等で、本校の取組を発信した。	※◎
	○教職員満足度アンケートの実施が年1回以上、また、管理職との対話が教職員1人当たり年3回以上 ○保護者や中学校等へ随時情報共有、また、特長ある取組についての中学校や報道機関等へ適時情報提供 【成果指標】 ○ストレスチェック集団分析結果の当該部署の「健康リスク」が県立学校全体平均を下回る	【成果指標について】 ○ストレスチェック集団分析結果は、「健康リスク(全国平均を 100)」については 88 であり、県立学校全体平均 90 を下回り、良好な傾向にある。	
働きやすい 職場環境 づくり	○業務の見直しや削減等の勤務管理を推進し、総勤務時間の縮減を図る。 ○時間割に学年、分掌等の会議の時間を設定し、連携及び情報共有の強化を図る。 【活動指標】 ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合が 95%以上 ○予定通り(週1回以上の)休養日を実施できた部活動の割合が 100% ○放課後等に開催して 60 分以内に終了した会議の割合が 100% 【成果指標】 ○年 360 時間を超える時間外労働者数が0人 ○月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数が0人	【活動指標について】 ○定時退校日に定時に退校できた教職員の割合 89.5%(12 月末現在、前年度比-5.0) ○部活動休養日を設定した日に休養できた部活動の割合 100%(12 月末現在、同±0) ○放課後等に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90.7%、(同-1.3) 【成果指標について】	※

	○1人当たりの月平均時間外労働が 3.5 時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数が 15 日以上	○年 360 時間を超える時間外労働者数: 0 人(12 月末現在、同±0) ○ひと月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数: 0 人(12 月末現在、同-1) ○1人当たりの月平均時間外労働: 2.6 時間(12 月末現在、同±0) ○1人当たりの年間休暇取得日数: 15.3 日 3.8 時間 20.5 分(同-1.6 日)	
改善課題			
○通級による指導をはじめとする特別支援教育については、今後も生徒の支援体制をより整備できるように取り組んでいきたい。また、継続的に関係者会議等を開催し、これからも校内外の研修を積極的に勧めていきたい。 ○ICTに係る研修では、Chromebook の具体的な活用方法や授業の中での使い方などを示した。各教科がそれぞれの特徴に併せた手法へと工夫をし、取組を進めていきたい。 ○コンプライアンスミーティング等については、時間や手間が必要な取組ではあるが、万が一でも不祥事などが起きると生徒にとって多大な影響が及ぶため、こうしたことにならないよう引き続き丁寧に行っていきたい。 ○定時退校日に退校できた教職員の割合や放課後等で開催して 60 分以内に終了した会議の割合が、昨年度より低く、目標を達成できなかった。数少ない会議の機会を有効に活用できるよう、学年主任の機能をより活性化するなどにより、日頃の職員間の情報共有や意思疎通の方策を構築したい。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	【教育活動】 ○授業全般 なぜ授業への満足度が下がったのか、また、授業規律について、今後、生徒がまなびに取り組むための環境整備を行っていくため、どのように教員の目線を合わせていくのか、具体的な改善案の提示が必要。 ○通級 支援が必要な生徒にとって、通級の体制が整っていることは、中学生の進路選択の際に安心感がある。本校を学生生活のスタートととらえる生徒もあり、生徒の特性に寄り添った体制であるため、今後も引き続き充実した取組をお願いしたい。 ○挨拶 自発的に挨拶できるためには、どのようにコミュニケーションをとることが必要か。また、生きていくために挨拶が大切であることを生徒に理解してもらえればと思う。 ○体育祭 体育祭は、昨年度に中止となったことで、本年度は反省を十分に生かした内容の行事とすることができた。生徒会が主体となり、競技内容や生徒の要望を取り入れ参加率、満足度の向上を図り、企画・立案・PR 等の計画が実行できるよう、中心となって活動する生徒や参加者側のリーダー性の育成などを図ってほしい。 ○文化祭 メイン会場の企画とステージ企画を両立できるよう、ステージ企画が始まる前にメイン会場となる駐車場で呼びかけをするのはどうか。 ○読書週間 静かに集中して読みたい生徒もいれば、読書が苦手な生徒もいる。読書週間の狙いと取組方法が合致しているか、明確にしてほしい。
----------------------------	---

	【学校運営等】 ○信頼される学校・教職員であるための行動 ストレスチェック集団分析結果だけからでは、生き生きと活躍できる職場環境であるかどうかについて評価できない。 ○改善課題 改善課題の中に「学年主任の機能をより活性化」とあるが、具体的にどのような方法で行うのか。また、会議の前に内容を教職員全員が事前にどれだけ把握、理解をしているのかというところも重要な課題。
--	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○授業評価等について、アンケートの標本数が少なく上下しやすい経年結果の推移でなく、本来の目標である「授業に対する興味・関心」「内容理解」「満足度」の高い割合90%以上を目指し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整えられるよう、ICTのさらなる有効活用、授業規律の適切な指導等に取り組む。 ○通級指導の取組を中学生等にもさらに周知していくとともに、来年度から導入される他校における巡回通級に携わることにより、校内での充実のみならず、本校通級の良さを校外にもさらに広げていきたい。 ○生徒が挨拶を自発的にできるよう、「あいさつ週間」に取り組む方法等を工夫するとともに、挨拶のもつ本来の大切さを生徒に伝えていきたい。 ○生徒会がより主体的に行事を企画・運営し、内容の充実を図ることにより、参加率、満足度の向上を目指したい。 ○「読書週間」の狙いを改めて生徒に周知するとともに、その取組方法に改善を加え、さらに意義のある取組としたい。
学校運営についての改善策	○集団分析結果だけからでは計りきれない「教職員満足度」や「管理職との対話による成果」について、生き生きと活躍できる職場環境につながっているか評価できるような指標を設定する。 ○会議の資料等を事前にオンラインで共有するとともに、学年主任の役割を明確にし、担任が兼務する校務分掌と学年との連携を密にし、異なる勤務体系における職員間の意思疎通を強化する。